2 芸術文化の“場”を育て拡げる

(1)地域で多様な“場”を育て拡げる

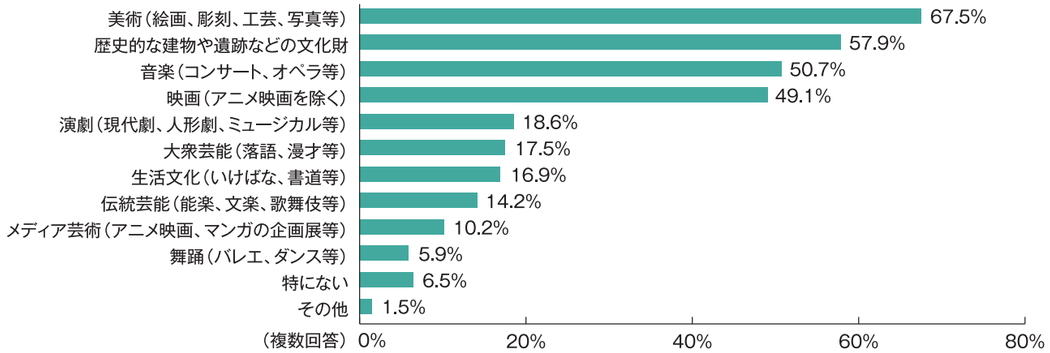
■ 現　状

○ 令和元年に実施した県民モニターアンケート調査の結果によると、1年間に芸術文化を鑑賞した人の割合は94%となっている。本県では、様々な芸術文化施設で公演や展覧会等が活発に行われているほか、芸術家による学校現場や地域へのアウトリーチ活動も積極的に行われるなど、芸術文化に触れる機会が豊富に提供されている。

○ 兵庫県では、地域差はあるものの、文化に対して興味を持つ人が比較的多い。これは、阪神・淡路大震災のなかで、芸術文化が果たした役割に人々が共感したからではないかと思われる。

○ 使われなくなった学校や教室、公共施設等の空きスペースの活用や、街なかにピアノを設けるなど、アートや音楽に親しむ場を創出する取組も進んでいる。

この1年間に鑑賞した芸術文化



【出典:第3回県民モニターアンケート調査(令和元年11月)】

■ 課　題

○ 今後、地域による人口の偏り等により芸術文化の鑑賞機会の地域偏在化がさらに顕著になることが想定される。

○ 空き施設等の利用については、利用者の多様なニーズに応えるための情報発信や、マッチング機能が十分であるとは言えない。

○ 地域に活力をもたらす、茶道、俳句、川柳、書道、いけばな、陶芸などといった生活文化の担い手が減少している。

○ コロナ禍の中で、地域の伝統芸能や交流イベントの開催が困難となっているほか、芸術家が公演する場や機会を十分確保できないとともに人々が芸術文化に直接触れる機会が減少している。

■ 展開方向

○ 県民が芸術文化に気軽に親しめるよう、「県民芸術劇場」や「−ふれあいの祭典−県民文化普及事業」を実施するとともに、県民の芸術文化活動への支援を行う。

○ コロナ禍の中で、比較的安全とされる屋外や屋外型の劇場の積極的な活用を進める。

○ 兵庫芸術文化センター管弦楽団やピッコロ劇団等のプロに加えて、アマチュアも含めた地域の芸術家の協力を得ながら、芸術文化施設だけでなく地域のあらゆる場所を活用し、誰もが芸術文化に親しめる多様な芸術文化の“場”を育て拡げていく。

○ 民間企業や私立学校等に対して連携協力の要請を行い、“場”の確保を進める。

○ 空き施設等を活用した芸術文化活動について、施設を提供する側と利用する側の相互ニーズをマッチングさせるため、ICT等を活用して積極的に情報発信を行う。

○ 生活文化の担い手を育成するため、地域や学校で伝統文化に親しむ機会を整備するとともに、団体間での協議・交流の機会を増やし、地域の元気づくりと活性化につなげていく。

■ 主な取組

①芸術家等が地域へ出向くアウトリーチ活動の推進

・ 県民芸術劇場(学校公演・一般公演)による優れた芸術文化公演の提供
・ 兵庫芸術文化センター管弦楽団やピッコロ劇団等によるアウトリーチ活動
・ 県域文化団体による地域の学校・施設等へのアウトリーチ活動
・ 幼稚園や特別支援学校など、従来よりも範囲を広げたアウトリーチ活動
・ 美術館・博物館等における教員を対象とした解説会やセミナーの実施
・ アウトリーチ活動にかかる調整機能の充実とデータベース化

②様々な場所の芸術文化発表の舞台としての活用

・ 空き店舗や空き施設等を活用した芸術文化作品の設置や公演、動画上映など芸術文化事業の支援
・ 県市町の文化施設等におけるロビーコンサートなど、多様な芸術文化の場の活用
・ 県民交流広場における芸術文化活動の推進

③交流の機会の創出と充実

・ 広域の文化イベントを通じた芸術家同士の交流の機会の創出
・ 「−ふれあいの祭典−県民文化普及事業」の開催
・ 兵庫県中学校総合文化祭・高等学校総合文化祭の開催

④県民の芸術文化活動への支援

・ ひょうご芸術文化元気プロジェクト等、県民や芸術文化団体の芸術文化活動に対する助成
・ 伝統文化学び塾事業をはじめとする、芸術文化を学ぼうとする県民に対する支援
・ 生活文化の担い手育成と団体間の交流促進
・ 知事賞の贈呈、県名義での後援など、各種文化活動への奨励と支援

(2)芸術文化による社会包摂の実現

社会包摂:子供・若者や、高齢者、障害者、在留外国人等にも社会参加の機会をひらく機能(文化庁 文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針・平成27年5月22日閣議決定))

■ 現　状

○ 兵庫県においては、いなみ野学園、阪神シニアカレッジ等の地域高齢者大学等が全県的に整備されており、その中において様々な芸術文化活動が展開されてきた。また、兵庫県障害者芸術・文化祭の開催や各芸術文化施設におけるバリアフリー化の取組、障害者の入館料・利用料の割引などの施策も進められてきた。

○ 第2期ビジョンの期間中には、平成30年に「障害者文化芸術活動推進法」が制定されるなど、障害者の文化芸術活動の推進が社会的課題の一つとしてクローズアップされており、兵庫県庁内に「障害者芸術文化活動支援センター」が設置されたほか、障害者芸術「する・みる・ささえるプロジェクト」が開始されるなど様々な施策が複合的に進みつつある。

○ 芸術文化を通じた豊かな交流が、様々な背景を持つ他者への理解にもつながり、社会包摂を実現する一助となることが期待されている。

■ 課　題

○ 今後、さらなる高齢化が想定されている中、高齢者へ芸術文化を通じた学びの場を引き続き安定して提供できる体制づくりが必要である。また、高齢者のニーズの多様化に対応するとともに、そこで得た知識技能を若い世代に伝えるなど社会へ還元する仕組みづくりが重要である。

○ 障害者の鑑賞や創造の機会を単に拡大するのみならず、技能の習得や発表機会の確保、さらには、障害者の芸術文化活動を支える人材の育成が求められている。あわせて、芸術文化関係者の意識改革も求められる。

○ 高齢者・障害者に限らず、在留外国人や災害被災者など、あらゆる人々があらゆる地域で芸術文化を享受し、発信することができる仕組みが必要である。特に、国際化の進展等により、在留外国人の中には日本語を十分に解することができない者も増加しており、多言語による情報発信や情報提供が不可欠となってきている一方、各施設においては十分な外国語能力を必ずしも有していないのが現状である。

■ 展開方向

○ いなみ野学園など高齢者大学等の運営を引き続き進めるとともに、市町等との適切な役割分担の下、大学等で学んだ高齢者がさらに学びを深め、能力の深化と自己実現を図る場の整備を行う。

○ 障害者芸術文化活動支援センターを拠点としつつ、作品の常設展示の実施開催や展示会等イベント開催経費の助成を行うほか、鑑賞機会の拡大やアートサポーターの育成に取り組む。また、障害者のアートサポートに興味を持つアート作家なども多いことから、障害者芸術文化人材バンクを設置するなど必要な情報の収集と発信を進める。

○ 県の在留外国人支援担当部署の協力なども得つつ、先進事例も参考に、在留外国人や外国人観光客に向けた情報発信及び情報提供の多言語化に取り組む。

○ ICT技術の活用なども視野に入れつつ、あらゆる人が気軽に芸術文化を享受でき、発信することができる仕組みを整備する。

■ 主な取組

①高齢者の芸術文化活動への支援

・ いなみ野学園、阪神シニアカレッジなど地域高齢者大学等の運営
・ 「ひょうごインターキャンパス」等による様々な形での生涯学習情報の提供

②障害者の芸術文化活動への支援

・ ピッコロシアター等におけるアクセシビリティ公演の実施
・ 障害者芸術応援プロジェクト(する):常設展示場 「兵庫県障害者アートギャラリー」の開設、貸しギャラリーでの定期展示の実施
・ 障害者芸術応援プロジェクト(みる):施設運営者対象の合理的配慮に係る研修の実施、劇場への手話通訳者等の派遣・字幕機材貸出
・ 障害者芸術応援プロジェクト(ささえる):障害者アートサポーター養成研修の実施、ボランティアサポーター派遣の支援
・ 障害者芸術文化人材バンクによる実地指導・オンライン教室の実施
・ 兵庫県障害者芸術・文化祭の開催

③外国人の芸術文化活動への支援

・ 芸術文化施設ホームページや施設内における多言語表記
・ 県内大学の留学生を対象とした日本の伝統文化体験講座の開催
・ QRコードを利用した多言語による解説動画の発信
・ ピッコロ劇団員による外国人を対象にした日本語ワークショップの開催

④すべての人があらゆる地域で芸術文化を享受できる環境づくり

・ バリアフリー改修など、すべての人に優しい施設づくり
・ 災害被災者の主催事業への招待

column 障害者芸術作品常設展示場「兵庫県障害者アートギャラリー」

兵庫県では、障害のある方々の文化芸術活動を通じた社会参加を支援するため、これらの方々の作品等の発表機会の確保、文化芸術鑑賞機会の拡大、文化芸術活動を支える人材育成の推進を目的とする「障害者芸術『する・みる・ささえる』応援プロジェクト」を推進しています。

このプロジェクトの一環として、令和2年10月、県立美術館王子分館原田の森ギャラリーに「兵庫県障害者アートギャラリー」をオープン。全国的にも珍しい、美術館内での常設展示を開始しました。

column ピッコロシアターにおける障害者への鑑賞サポート

尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)では、視覚や聴覚に障害のある方も一緒に舞台を楽しんでいただく機会を提供しています。

視覚障害者を対象に、劇団公演について舞台の情景や役者の演技を音声でライブ解説する「音声ガイド付き公演」や、点字台本の提供、舞台を想像してもらえるよう舞台装置の立体模型を作成して手で触れてもらうなどの取組を実施。聴覚障害者には、俳優の台詞や音響効果などの音声情報を舞台上に文字表示する「字幕付き公演」や、受付や客席誘導の際の手話通訳の配置、セリフに頼らず身体表現だけで物語を展開するマイム上演の企画などを進めています。

こうした取組は、新聞など様々な媒体で取り上げられているほか、令和元年には「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」を受賞。さらに、ホール関係者や文化行政関係者等に呼びかけてセミナーを開催し、これらの取組を県内外に広めようとしています。

ファミリー劇場の字幕付き公演

立体コピーで舞台装置をイメージ

音声ガイド専用受付

(3) 青少年が本物の芸術文化に親しむ

■ 現　状

○ 本県では、全中学1年生が県立芸術文化センターにおいて生のオーケストラの演奏を体験する「わくわくオーケストラ教室」を継続して実施しているほか、ピッコロシアターにおける中学生のための演劇鑑賞体験事業「わくわくステージ」の上演、県内の小・中学生に多くの芸術文化施設を無料で見学できる「ひょうごっ子ココロンカード」を配付するなど、子どもが本物の芸術文化に親しむ機会が確保されている。

○ また、能や歌舞伎、短歌や俳句等伝統文化の分野においても、親子で芸術文化に親しむ事業や、様々な体験や技能を持つ地域の年長者と子どもが互いに交流するプログラムが実施されている。

○ 第2期ビジョンの期間中には、学校において専門の講師から生活に根付いた伝統文化を学ぶ「子ども伝統文化わくわく体験教室」や、大規模な舞台装置などを用いた生の演劇に触れるピッコロ劇団による「市町ホール公演」などが始まった。また、県立美術館・博物館等の高校生入場料無料化や、大学と美術館・博物館等との連携協定などの取組も進んでいる。

■ 課　題

○ 教職員の働き方改革や授業時間確保等の事情により、学校行事が精選され、芸術文化の鑑賞や体験の機会が減っているほか、芸術文化活動の主要な担い手であった部活動の活動時間も削減されつつある。

○ コロナ禍で休校が長引いた影響により、各学校は授業時間を確保することが困難になっている中、行事の減少等により青少年が本物の芸術文化に親しむ機会が減少している。

○ 核家族化が進み、地域のつながりが希薄になる中、学校以外の場所において、世代を越えて伝統文化や文化的行事に親しむ機会が減少している。こうした中で、伝統文化や文化的行事の消滅も危惧される状況となっている。

■ 展 開 方 向

○ 学校教育との連携を引き続き進める一方で、家庭や地域においても本物の芸術文化に触れる機会を増加させる。特に、アウトリーチ活動等において、単なる鑑賞ではなく、体験を組み入れることを推進する。また、本物の芸術文化に触れることが、感性や人間性の涵養に重要であることから、学校や地域において本物の芸術文化に直接触れる機会を増加させる。

○ 子どもの芸術文化体験について、親の意識啓発や親子の交流の促進を図るため、親子で芸術文化に親しむことができる取組を展開する。

○ 青少年に対し、地域の伝統文化や伝統芸能等の魅力に触れてもらうとともに、若い人と高齢者などの世代間交流を図り、次代の芸術文化の担い手として育成を進める。また、一流芸術家によるレッスンを受ける機会を提供し、芸術文化の育成を図る。

■ 主 な 取 組

①青少年が本物の芸術文化に親しむ機会の充実

- 県民芸術劇場等による優れた芸術公演の提供
- 子ども伝統文化わくわく体験教室の実施
- 兵庫芸術文化センター管弦楽団やピッコロ劇団等によるアウトリーチ活動
- 兵庫陶芸美術館と丹波立杭焼伝統工芸士による陶芸出前講座の実施
- 県域文化団体による地域の学校・施設等へのアウトリーチ活動
- アウトリーチ活動等における体験の組み入れなど内容の向上支援

②学校教育との連携の推進

- わくわくオーケストラ教室等における事前事後指導の充実
- 中学生のための演劇鑑賞体験事業「ピッコロわくわくステージ」の実施
- 美術館・博物館等における教員を対象とした解説会やセミナーの実施
- 学校の部活動等でリモートレッスンにより指導を受ける機会の提供
- 複数校をリモートで結んでの合同レッスンの実施
- 各種コンクールでの絵画や作文の募集など、学校への適時・適切な情報提供

③親への啓発や親子交流の促進

- ピッコロシアターにおける乳幼児のための初めての劇場体験事業「シアタースタート」
- ピッコロ劇団ファミリー公演や伝統文化体験教室等、親子で楽しめる公演や体験講座の実施
- 兵庫陶芸美術館「夏休み!1日まるごとこどもの日」の開催

④文化の担い手の発掘・育成に向けた青少年への魅力発信

- 伝統文化ふれあい広場等、伝統文化に気軽に触れることができる機会の創出
- 兵庫県伝統文化研修館における体験事業や研修事業の実施
- 県域芸術文化団体による伝統文化継承への支援
- 祭りや伝統芸能等、地域固有の文化資源に対する支援
- 一流芸術家によるレッスンを受ける機会の提供

column 県内の中学1年生全員を対象とした「わくわくオーケストラ教室」

義務教育段階から本格的なオーケストラの演奏に親しむことや関連施設の見学を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに音楽に対する感性を培い、豊かな情操を養うために実施している「わくわくオーケストラ教室」。平成18年の事業開始以降、毎年約5万人、のべ70万人近い中学生が、兵庫芸術文化センター管弦楽団が奏でる生のオーケストラを体感してきました。

中学1年生が一度は耳にしたことのあるクラシックの名曲を取り上げ、映像を活用した詳細な説明や、各楽器の音色や演奏方法の紹介などを通してオーケストラの基礎について学びます。あわせて、県立芸術文化センターのホール設備・機能についても解説し、スタッフなど裏方も含めた、多くの人々が携わる芸術の現場についても理解を深めます。

column 兵庫陶芸美術館「夏休み!1日まるごとこどもの日」

兵庫陶芸美術館では、子どもとその保護者に美術館をより身近に感じてもらうとともに、やきもの（陶芸文化）の魅力に触れる機会として、平成29年度から、美術館と兵庫教育大、ボランティア等が連携して、「夏休み!1日まるごとこどもの日」を開催しています。

当日は、「展覧会鑑賞ツアー」のほか、美術館のウラ側を紹介する「探検美術館」、「ろくろ体験」や「丹波ねんどで遊ぼう」など、親子で見て、触れて、感じて、楽しめる多彩なプログラムが繰り広げられています。

ろくろ体験

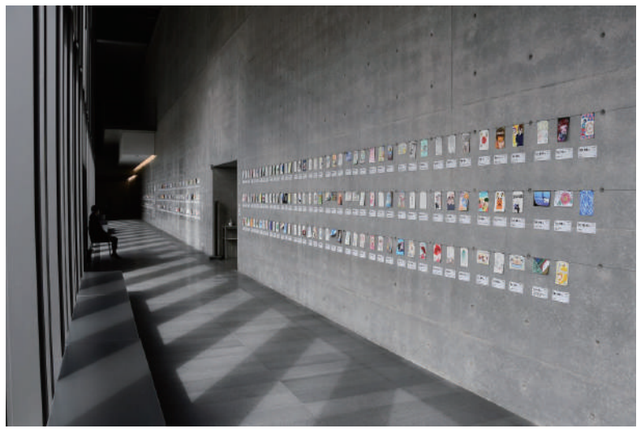
展覧会鑑賞ツアー

column 県立美術館　KEN･Viこどもプログラム

県立美術館では、子どもたちが美術作品と楽しく出会えるように、さまざまなこどものためのプログラムを用意しています。子どもたちだけが参加できるイベントの他に、家族で参加できるイベントや小さなお子さんも参加できるイベントなど、さまざまなプログラムを用意しています。

令和2年度に開催された開館50周年「今こそGUTAI　県美（ケンビ）の具体コレクション」に関連して、手紙やはがきを「作品」として送る「メールアート」を小･中･高校生から募集。約450点の応募があり、館長賞2点と佳作8点が選ばれ、他の応募全作品とともに美術館内に掲示されました。

このほか、展覧会会場に子ども向けの解説シートを設置するほか、親子で楽しめる「おやこ鑑賞会」「おやこ彫刻探検」、創作型のワークショップ、館外でのアウトリーチ活動などを積極的に展開し、子どもたちが美術に親しみ、美術館に何度も足を運びたくなるような取り組みを進めています。



3 文化力を高め、地域づくりに活かす

（1）芸術文化資源の掘り起こしと文化力の向上

■ 現　状

○ 本県は、広大な県土と豊かな歴史、五国の多彩な風土を反映して、文化財や伝統芸能、民話、歴史遺産や産業遺産など、地域を特徴づける文化資源が数多く存在している。県内の国指定文化財は全国で6番目の数であり、世界遺産や日本遺産、近代化産業遺産等に指定されたものも多い。

○ 伝統文化･生活文化の分野においても多数の流派が本部･支部を構えるなど、活発な動きが見られる。また、県内各地で薪能が数多く開催されており、多くの労力や経費を必要とする薪能を支える層がいるということは、伝統文化の厚みを示す一つの指標とも言える。

○ また、多くの文人たちが城崎温泉をはじめとする県内各地で創作活動を行い、阪神間モダニズムといわれる生活様式が育まれ、前衛的･実験的な芸術家団体である具体美術協会が活躍するなど、現代の我々の生活にも大きな影響を与えた取組が繰り広げられてきた。芦屋が発祥の地である具体美術協会の取組は世界的にも評価されているなど、こうした歴史を再発見するとともに、現代の新たな動きにつなげる取組も続けられている。

国指定･選定文化財一覧（R2.3.31現在）		
有形文化財	建造物	109（11）
	絵画	101（2）
	彫刻	107（1）
	工芸品	65（2）
	書籍･典籍･古文書	43（3）
	考古資料	48（1）
	歴史資料	1
無形文化財		3
民俗文化財	有形	7
	無形	7（13*）
記念物	史跡	54（1）
	名勝	10
	天然記念物	17
重要文化的景観		1
重要伝統的建造物群保存地区		6
選定保存技術		3
合計		597（21）

（注）（　）内は、国宝･特別史跡で内数。
地域を定めないで指定を受けているコウノトリ、イヌワシ、オオサンショウウオ、ヤマネ、オジロワシ、オオワシ、マガン、コクガン、ヒシクイ等は含まない。
*付の数字は、記録作成の措置を講ずべきものとして選択された無形文化財、無形の民俗文化財の数を示す。告示日をもって指定･登録件数に数える。
県･市町村指定も含めた表はP64に掲載。

○ 西宮市の県立芸術文化センターや豊岡市の城崎国際アートセンターのように、地域に多くの支援者がおり、地域の人々にとって将来に残したいまちの魅力となっている施設が生まれてきている。

○ また、兵庫県は「書道王国」ともいわれ、日本芸術院会員に推挙されるような有力な書家を輩出し、県内で開催される書道展には全国から多くの愛好家や若手作家が訪れるなど、集客力のある文化となっている。

○ 第2期ビジョンの期間中には、歴史文化遺産の保存･活用にかかる理念と基本方針を定めた「文化財保存活用大綱」が策定されたほか、阪神間モダニズムや淡路人形浄瑠璃、丹波焼など様々な地域資源を活用した事業が県内各地で展開された。

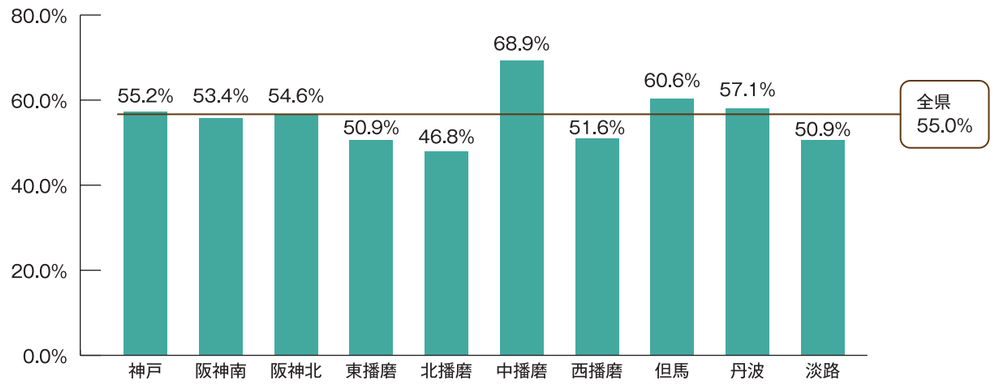
■ 課　題

○ 県民意識調査の結果では、文化資源を地域の「宝」として認識する割合には大きな地域格差が見られる。歴史や風土等、地域の持つ様々な資源や特性を改めて見直し、それを地域内外に発信していくことによって、個性豊かな地域づくりに活用していくことが必要である。

○ 多様で幅広い歴史文化遺産の保護への対応が不十分であるほか、歴史文化遺産を未来に伝えるための地域の担い手や専門的人材の不足が深刻な状況となっている。また、歴史文化遺産の活用や魅力発信が十分とは言えない状況である。

○ 地域における芸術文化活動の歴史や現状が学校等で教えられることはなく、マスコミ等で取り上げられる機会も少ない。地域で行われる行事に参加する機会も減っているなか、こうした歴史が、地域に住む人々の共通認識まで育っていないという現状がある。

住んでいる市・町で、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化等）があると思う人の割合



【出典:兵庫県「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査（令和2年度）】

■ 展開方向

○ 歴史文化遺産の確実な保存と積極的な活用を行うため、新たな保護制度の創設や保存修理の適正化、災害への備えなどを進めるほか、歴史文化遺産の地域おこし・まちづくりなどへの積極的な活用や、地域におけるリーダーの養成と活用、歴史文化遺産の掘り起こしと価値の再評価などを行う。将来的には、それらをコーディネートする核となるヘリテージセンターの整備を検討する。

○ さまざまな地域資源や芸術文化資源について、引き続き掘り起こしを行っていくとともに、これを観光資源としてのみならず、地域内へも十分にPRを行い、地域（シビック）プライド（その地域に住む人が自分の住む地域に愛着を持つとともに、誇りをもってまちを作りあげている自負心）の向上につなげる。

■ 主な取組

①文化財・伝統芸能等地域資源の保存と活用

- 文化財保存活用大綱に基づく文化財の保存・活用の推進
- 歴史文化遺産の活用を図るヘリテージマネージャー等の人材育成
- 無形民俗文化の県登録制度の制定及び情報発信
- 優れた技術の保存、継承、記録、顕彰の取組
- 「アートde元気ネットワークひょうご」サイトを活用した地域伝統芸能の情報発信
- 学校・地域等での体験事業による伝統文化の普及と伝承への取組

②産業遺産や地域の芸術文化遺産の再評価

- 日本遺産の認定と活用
- 兵庫津、北前船寄港地、西国三十三カ所など歴史遺産の掘り起こし
- 銀の馬車道、鉱石の道、丹波焼最古の登窯など産業遺産の活用
- 阪神間モダニズムや具体美術協会、淡路人形浄瑠璃など芸術文化遺産の再評価

③地域内部への芸術文化資源のPR

- 鑑賞事業やセミナーの開催
- 地域文化資源のPR動画等ICT技術を活用した情報の提供
- 県立芸術文化センターや新県民会館を活用した地域の伝統芸能公演の実施

④地域（シビック）プライドの育成

- 地域で活躍した芸術家・技術者等の顕彰
- 地域資源を核とした活性化事業の実施
- ふるさと文化の伝承・発信サポート事業の推進
- 農村歌舞伎・子ども歌舞伎などを含めた地域行事の活性化の推進
- 地域の文化・歴史に関するシンポジウムや講座、イベント等の開催

column 兵庫県における「日本遺産」の認定

地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するのが「日本遺産」。兵庫県では、全国104件のうち最多9件（平成2年6月現在）のストーリーが認定されており、その時代もテーマも多彩であることが特徴です。

認定順	名称	認定年度	構成市町
1	丹波篠山　デカンショ節-民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶	平成27年度	丹波篠山市
2	古事記の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」 ～古代国家を支えた海人の営み～	平成28年度	淡路市、洲本市、南あわじ市
3	播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道	平成29年度	朝来市、姫路市、福崎町、 市川町、神河町、養父市
4	きっと恋する六古窯 ―日本生まれ日本育ちのやきもの産地―	平成29年度	丹波篠山市　ほか
5	荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～	平成30、令和元年度	神戸市、高砂市、新温泉町、 赤穂市、洲本市、姫路市、 たつの市　ほか
6	「日本第一」の塩を産したまち　播州赤穂	令和元年度	赤穂市
7	日本海の風を生んだ絶景と秘境 ―幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」	令和元年度	香美町、新温泉町　ほか
8	「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼」	令和元年度	宝塚市、加東市、加西市、 姫路市　ほか
9	「伊丹諸白」と「灘の生一本」 下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷	令和2年度	伊丹市、尼崎市、西宮市、 芦屋市、神戸市

(2) 地域資源を活用した地域の元気づくりの推進

■ 現　状

○ 本県では、各県民局・県民センターや市町、民間活動グループ等が中心となり、地域の文化資源を活用した魅力あるイベントが多数実施されるとともに、地域特有の街並みを観光客の増加等、まちの活性化に活かしている例もある。また、県内各地でそれぞれ特色ある芸術祭やアートイベントが開催されている。

○ こうした魅力的な地域資源やイベントは県内外の人々を引きつける大きな要因ともなっており、本県の観光客入込数は、災害の有無など年により若干の増減はあるものの、概ね1億3千万人程度となっている。

○ 第2期ビジョンの期間中にも、のせでんアートラインやアート・プロジェクト　KOBE　2019:TRANS-などの新しいアートイベントが誕生したほか、日本遺産を活用した観光キャンペーンなどの取組が展開された。さらに、令和2年から本格的にスタートした豊岡演劇祭は、演劇のまちづくりのリーディングプロジェクトとして大いに期待される。

○ 県内においてはアニメやライトノベル等のポップカルチャーも盛んであるほか、いわゆる聖地巡礼として作品の舞台となった地域を多くのファンが訪れるなど、従来の枠組みにとらわれない地域活性化の動きも見られるようになってきている。

○ コロナ禍において、域内観光や地方への移住、旅先で仕事を行うワーケーションなど、新たな社会行動の動きも起こりつつある。また、身近な修学旅行先として兵庫県が注目されるといった動きも出てきている。

■ 課　題

○ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、お祭り等の地域の伝統芸能や国際的な交流イベントの開催が困難となっているほか、観光や地場産業は非常に大きな打撃を受けており、今後、回復に向けた方策が必要である。

○ 優れた芸術文化や地域資源がすぐに観光資源となるわけではなく、芸術文化になじみが薄い人にとっても分かるよう、芸術文化の側において見せ方について十分な検討が必要である。既存の地域型アートイベントについても、さらに飛躍するための支援が必要である。

○ 観光以外の産業分野との連携も十分とは言えず、例えば、県内の地場産業や中小企業のものづくりに若手芸術家などの発想を取り入れることにより、新たな販路開拓や産地の活性化につなげていく。また、産地間の交流をさらに進めることにより、地域や産業の活性化を図る必要がある。

■ 展開方向

○ 貴重な文化財等を後世に残すため、十分な保存体制を確保する一方で、その活用についても可能な範囲で進めていく。

○ 芸術文化の地域資源としての魅力向上により、関心の高まりや携わる人（働き手、担い手）の増加、新たな魅力の創造・発信が図られ、観光を通じて「ヒト・モノ・カネ」が動くことにより地域が活性化し、さらに芸術文化の振興が図られる好循環の創出に取り組む。
また、若い世代への魅力発信として修学旅行先としてのPRも進める。

○ 芸術文化観光専門職大学が、地域課題を解決するプラットフォーム機能を発揮するために設置する「地域リサーチ＆イノベーションセンター」において、地域の文化政策への助言・支援や共同研究・政策提言、また起業支援や新たな地域資源の開発などを進め、地域の活性化につなげていく。

○ ものづくりに興味を持つ若手芸術家やデザイナーの発想を地場産品等に活用し、職人の確保や販路の開拓、移住による地域の活性化などにつなげる。

■ 主な取組

①地域文化資源を活用したまちづくりの推進

- 地元の芸術家等と連携した取組の推進
- 空き家等を活用したアーティストインレジデンスやアーティストの移住促進
- ミュージアムロード、阪神間モダニズム、銀の馬車道、祭り等地域資源を核とした活性化事業の実施
- 地域におけるアートイベント、音楽コンクール等芸術文化関係の集客イベントの実施
- 「アートde元気ネットワークひょうご」等を活用したアートイベント等の地域間連携の強化
- 近代茶室建築を代表する木津宗泉設計茶室の移転整備

②観光資源としての魅力向上に向けた展開方法の充実

- 豊岡演劇祭を先導的な取組とし、鑑賞型から滞在型・体験型へのコンテンツの充実化
- インバウンドの来訪者に対応した多言語での情報発信の充実（ホームページでの情報提供、SNSでの発信、現地での案内・解説など）
- 文化団体・文化財管理者等が、地域の多様な主体とともに観光地域づくり法人（DMO:Destination Management/Marketing Organization）と連携し、観光コンテンツを造成する取組に参画

③地域資源の観光と地域活性化への活用

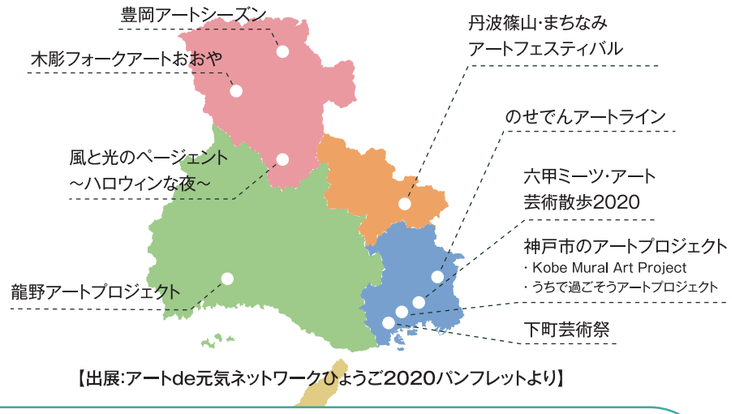
- 世界文化遺産の姫路城などの歴史遺産、淡路人形浄瑠璃をはじめとした伝統芸能、宝塚歌劇などの特色ある舞台芸術といった兵庫五国の多様で豊かな文化資源がツーリズム資源として活用されるための観光振興分野との連携
- 日本遺産を活用した観光キャンペーンやバスの運行
- 銀の馬車道、鉱石の道、丹波焼最古の登窯など産業遺産を活用した地域振興
- 兵庫津、松帆銅鐸など歴史遺産を活用した地域振興
- アニメーションなどのポップカルチャーの活用
- 魅力ある修学旅行先である兵庫県とその地域資源のPR
- 芸術文化観光専門職大学「地域リサーチ＆イノベーションセンター」によるコンサルティング機能・シンクタンク機能・インキュベーション機能の発揮

④芸術家の発想を活用した地場産品等の制作・発売

- 職人の確保や販路開拓を含めた国・県指定伝統的工芸品等の振興
- 豊岡かばんや播州織など地場産業等への若手芸術家の導入

column アートde元気ネットワークひょうごの取組

兵庫県各地では、伝統的な建築物や町並み、自然の風景など地域固有の資源とアートを融合したアートプロジェクトが数多く展開されています。「アートde元気ネットワークひょうご」は、兵庫県内12のアートプロジェクト・団体が連携。県内外に共同して広く情報発信を行い、交流人口の増加と地域の活性化を図ります。



【出展:アートde元気ネットワークひょうご2020パンフレットより】

アートde元気ネットワークひょうご　公式ホームページ

アートde元気 で検索　https://hyogo-artdegenki.jp/

column 豊岡演劇祭によるまちづくり

「豊岡演劇祭ではじめる持続可能なまちづくり」をコンセプトとする「豊岡演劇祭」。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により演目や進行の変更を余儀なくされるなか、さまざまな感染症対策を講じながら、令和2年9月に開催されました。

公演等への来場者は延べ計6,547人。来場者アンケートによると、市外在住者が7割、うち豊岡市に初めて訪問した人が4割に上りました。その観光消費額は計44,836千円、経済波及効果は75,324千円と推計されています。

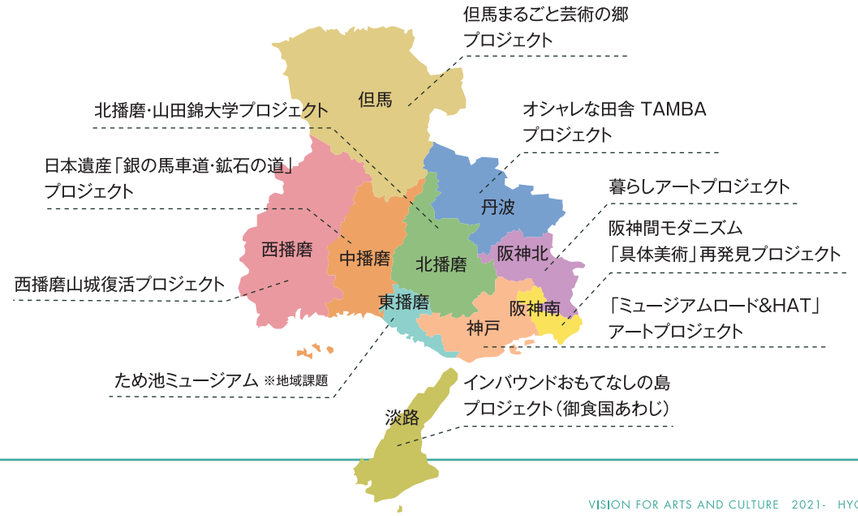
パスケースによる移動ログの取得やオンデマンド交通の実証運行、地元特産品を集めたナイトマーケットなど、民間事業者とも連携した、今後のまちづくりにつながる様々な取組みも進められました。

撮影協力:日高神鍋観光協会

column 芸術文化観光専門職大学地域リサーチ&イノベーションセンター

令和3年4月に豊岡市に開学する芸術文化観光専門職大学。その設置目的の一つである「地域に根ざした教育研究活動の推進と、地域及び国際社会への貢献」を果たすため、「芸術文化観光専門職大学地域リサーチ&イノベーションセンター」を設立します。

同センターでは、地域活性化のため、大学教員、学生と地域の方々が協働するローカル&グローバルなネットワークを形成。インキュベーション機能・コンサルティング機能・シンクタンク機能という3つの機能を発揮して、観光地経営及び芸術文化政策等の進展に寄与していきます。

column 各県民局文化関係リーディングプロジェクト事業等

神　戸	**◆「ミュージアムロード&HAT」アートプロジェクト** 都心に近接する県立美術館を核として、ミュージアムロードに加え、HAT神戸エリアに現代アート作品を設置し一大アートゾーンを形成
阪神南	**◆阪神間モダニズム～「具体美術」～再発見プロジェクト** 阪神間モダニズム等多様な芸術文化資源や「具体美術」を核に、芸術文化の魅力あふれる住み心地のよいまちとして地域への愛着を育む
阪神北	**◆暮らしアートプロジェクト** 都市と里山地域の強みを活かした「アート・ライフ」の創造・実現をめざし、歴史・文化・芸術、自然や暮らしをつなぐアートなまちづくりを展開
東播磨 ※地域課題	**◆いなみ野ため池ミュージアムの推進** 東播磨ため池群と水路網を地域の財産として活用を図り、水辺との心豊かな暮らしが思い出に残る東播磨づくりを推進する。
北播磨	**◆北播磨・山田錦大学プロジェクト** 日本一の酒米「山田錦」を象徴に、北播磨の魅力あふれる農と食の祭典、都市農村交流イベント、地産地消活動など人材育成や交流人口の拡大を推進
中播磨	**◆日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」プロジェクト** 「銀の馬車道・鉱石の道」を核として、誘客促進を図るほか、フランスとの縁をテーマにツーリズム等を通した相互交流を展開
西播磨	**◆西播磨山城復活プロジェクト** 管内に点在する山城や風情豊かな町並みなど多くの歴史資産を線で結び、伝統的な文化体験と一体的に楽しむツアー等を実施し、交流人口の拡大を図る
但　馬	**◆但馬まるごと芸術の郷プロジェクト** 豊岡演劇祭や、芸術文化観光専門職大学と連携した芸術文化イベントを但馬全域で展開し一元発信するなど、内外の人々がつながる「芸術の郷づくり」を推進
丹　波	**◆オシャレな田舎TAMBA プロジェクト** 農家民宿や農家レストラン等の情報一元化、サイクリング環境の整備など、体験・滞在ツーリズムを展開。併せて、特産品10 品目程度を「TAMBA十宝」(仮称)として選定し戦略的にブランド化を推進。
淡　路	**◆インバウンドおもてなしの島プロジェクト** 淡路島の多彩な観光情報に、外国人が手軽にアクセスし、周遊ができるよう、国別の嗜好に合わせたWeb発信、MaaS　の導入検討など公共交通の利便性の向上、御食国あわじの美食が堪能できる環境づくり等を推進